

有耶無耶



「有耶無耶になる 有耶無耶にする」といううやむや、仏教が老荘思想の言葉を取り入れたものの一つです。

耶という漢字には、「くだろうか」という意味があります。有耶無耶は、あるのだろうかないのだろうかとおぼろげなありさまを表す言葉として現代でもほぼ同じ意味で用いられています。

ところがです。なぜか日本で違う意味で使われている場所があります。それが、宮城県と山形県の境、笹谷峠にある有耶無耶関の物語です。その昔、関所があった有耶無耶関。この近くでは、人を食らう鬼が出るとの噂があった。そこに八咫鳥がやってきて鬼がいれば「有や」と鳴き、いなければ「無や」と鳴いたそうです。この場合の「や」の用法は、断定です。

条件が変われば、言葉の意味も変わってきます。ちなみに「まじ？」は、江戸言葉だったそうです。いまになって復活する言葉もあるんですね。

まじじい。
まじじい。
実は、江戸で「まじ」
ヤマト

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

盂蘭盆

おそらくは、日本で一番盛んな仏教行事



事であろうお盆ですが、正式には、盂蘭盆と申します。サンスクリット語で倒懸を意味する *ulambana* の音が漢字に当てはめられました。倒懸は、物事を逆さまに見ていることを言います。お盆は、この盂蘭盆経というお経が元になり中国で始まり、日本でまた形を変えて広まった行事です。歴史は古く聖徳太子の時代から勤められていたそうです。

盂蘭盆経にはこう説かれています。お釈迦様の弟子目連さんが、亡くなった母親を神通力でどこにいるか見たところ、餓鬼の世界に堕ちていた。餓鬼道は、飲まず食えずの世界。水を飲もうとすると口元で火に代わる世界。目連さんはお釈迦様に相談しに行きます。すると、「七月十五日に修行を終えた僧侶が近くを通る。お盆に供物を載せて、お供え下さい。僧侶の功德によって母親は助かるであろう」と言われます。目連さんはその通りに実行し、母親を餓鬼道より救うことが出来たという話です。



後に、農村部で、農作業の関係で八月十五日に行うところも出てきたそうです。七月盆、八月盆があるのはそのためです。